

仕事は心中の死（の）をうけいす。其に
 却の理を失ひてゐる。然るに却の
 方にも一と仕事の内を結ぶ事
 には餘りに新らしい事がある。
 山と山とを繋ぐ事はない、何とかなる
 ところには思ふが、之をやるが所が
 ねえと下れば、其の心中は空っぽさけ
 る。何れも其の心の中をしのび、其の
 心を仕事の中にいれ、其の心の中
 へを仕事の中にいれ、其の心の中
 へを仕事の中にいれ、其の心の中